

## 生活館建設をめざして

### いま一步の前進を願う

同窓会会長 伊村 隆恵

平成三年の改年を迎え、一雨毎に春めいてまいりました。同窓諸兄の皆様方におかれましては、いよいよご健勝にてご活躍のことと推察いたし、お喜び申し上げます。昨年は母校の生活館建設基金に対しまして、深いご理解とご協賛をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

湾岸戦争もようやく停戦となりましたが、戦後の中東における平和保持への新たな不安や、東欧を中心として激変する国際社会での我国の外交指針の欠如等を考えますと、経済よりも外交のあり方が厳しく注視される新たな試練の時代にさしかかっていることを痛感いたします。

さて、昨年六月の同窓会報千南原十四号に、生活館建設に関する詳細な計画内容を掲載し、一万六千名の諸兄にご理解とご協力を懇請いたしました。お陰をもちまして多くの方々からのご協賛をいただき、その結果二月末には総額が約九千万円を超える巨額に達しました（但し特別寄附額を記帳してあっても、まだ納入していただけていない約一千万円を含む）。特に遠隔地の方々からのご声援とご送金が多かったのが印象に残っております。中には二十代の若い看護婦である同窓生から励ましの手紙と共に多額のご援助をいただいたり、あるいは若くして亡くなった同窓生のご両親から心を込めたご送金をいただいたりと、母校愛あふれる皆さんの様々な人情の機微に触れ、事務局の皆さんと感慨を新たにしております。多くの卒業生の皆様のご早々のご賛同に心からお礼申し上げます。おかげをもちまして、もう一步前進するならば目的の達成も間近いものと確信するまでにいたしました。そのため、中間報告を兼ねて再度のご協力を同窓生の皆様に強くお願いし、なんとか母校の生徒が快適に合宿や諸活動に勤しむことができるように一日でも早く生活館の建設を実現してやりたいという思いに駆られて活動している次第です。

実は当初の計画は、私共の勝手な見積りで、一万六千名弱の卒業生のうち諸事情を考慮して、一万人の方々のご賛同を得れば一億円に達し、他に特別寄附三千万円、後援会より五千万円、これらを合わせて計一億八千万円と考えていました。現在のところ、予定した卒業生一万人に対し賛同者は三千名強、金額四千万円余であります。この数字は、これまでのような同窓会新聞で依頼をして待つという活動だけではとても目標額が集まらないということで、昨年末より地元におい

て多くの卒業生や役員の方々が同窓生のお宅を個別訪問して協力を仰いだ努力のおかげであります。仕事の合間の時間を割いて大変熱心に回っていただいた方々、また、それに対して快く募金に応じてくださった同窓生の皆さんに、心より感謝の意を表します。思えば、平成二年一月に生活館建設案の具体化と募金の第一歩を踏み出してから約一ヶ年、この中間報告にあるように全体では九千万円余のご協力をいただいた高等学校は、私の聞き知るところでは県下でも他に例を見ません。さすが藤枝東の卒業生は違うという感を深くいたしました。しかし、感心してばかりもいられません。とにかく「建物」を建てなければ、何も始まりません。同窓会名簿を開けば、先程も述べましたように、協力していただけそうな方がずいぶんいらっしゃるのです。

そこで、先般一月二十六日に志太地域の全役員代表者会を開催いたしまして、今後の募金活動について、協議をいたしました。そして、三市二町での役員による同窓生・事業所等への個別の訪問や、学校長と正副会長による企業等への大口の特別寄付の依頼を引き続き行うこと。また、全国の同窓生に同窓会報によって再度の協力をお願いしていくことなどが確認されました。この勧募活動が実れば、建設も必ず可能になることと思えます。

さて、今年平成三年は全国高校総体が静岡県で開催されます。特に藤枝市はサッカー、バレー会場でありますので、出来得れば一日でも新会館にて合宿練習をさせてやりたいと思えます。また同時に、この全国総体においてサッカーの優勝も期待しております。このサッカーにつきましても、時代の流れの中で様々な状況の変化があり、あと一步というところでなかなか期待に応えることができません。しかし、学校長と監督も全力を注いで部の強化にあたり、今年も地元の優秀な選手が入学しましたので、再び栄冠の日も間近という希望をもって見守っております。このように、諸活動に勉学にすばらしい成果を上げている母校の生徒達に、彼らが今一番必要としている生活館を贈ったなら在校生もその期待に応えて、いっそうの創造的な活動を展開するものと信じております。かかる意味からも、一人でも多くの諸兄のご賛意のもとに一日も早く初期目標を達成し生活館が出来ますよう、あらためてご協力を賜りますことを衷心より懇願申し上げます。